して自分の行爲の功果や影響を計る事は出來ぬ。却つて生徒を叱りつけたりして、更らに自分の非を思はない。

然るに一旦動物を相手にすれば、忽ち自分が非常に氣短かで、同情が無く、殘酷で、利己的であると云ふ事に著しく氣がつく。卽ち敎育者は動物が自分の設計に反應し、自分の命令に服從する有樣を觀察するよりも、先づ自分の態度がどう云ふ結果を生じたかをよく知らなければならぬ。この點は敎育者が深く鑑みなければならない所で、卽ち動物心理の研究は、人間の心理の研究よりも、もつと一層强い忍耐を要する所以である。

病氣の子供

醫學士　石塚保吉

これから第二章に移り、病氣の子供に就いて一般の注意を御話いたします。

一般に幼少なる子供は、自分の身體に或る故障が起つても、それを明瞭、何處が惡いとか、何處が痛いとかいふことを、言ひ表すことが出來にくいものであります。その爲めに、どうも、子供の病氣を早く豫知したり。見分けたりすることが、母親其の他の人に困難なものであるとされて居るやうであります。然乍ら、私共から申せば、一概にそうとは申されないので、常に慈愛と親切とを以つて、注意深く子供を保育して居らるゝ母親其の他の人にとつては、子供の身體に起つた異狀を早く知る位のことは、左程に困難なことではあるまいと思ひます。寧ろ或る點に於いては、子供は

成人の場合よりも、反つて判り易い場合があると思ひます。成る程、成人のやうに明瞭した言葉を以つて言ひ表はすことは出來ますまい。けれども言葉ばかりが表現の唯一な手段ではありません。もつと明瞭な、正直な表情の手段が幾らもある。動作や、顏色や、音聲などが其の主なるものであります。子供はこれ等の手段によつて、自分の內部に起つたありのまゝを最も直截に、僞りなく言ひ表はすものでありますから、これ等の變動に深く注意して居れば、これによつて子供の病氣を判斷することが、そう六ケしいことではあるまいと思ひます。成人の場合であると、病氣に依りては必要ある事柄まで隱して居るといふ場合が多いのですから、反つて其の判斷に困難する事があります。

機嫌の變化

子供が病氣になると、第一に起る變動は、機嫌が惡くなることであります。體に異狀のない普通の子供であると、何時も元氣に充ち〳〵た動作や遊びをして、常に生々として居ります。これが一度病氣になると、何處となく機嫌が惡くなつて來る。昨日までは嬉々として遊んで居たのも、今日は玩具さへも持たなくなります。ちよつとした事にも泣く、他から愛してやつても、笑はない。結り、遊ぶといふ心持ちがなくなつてしまう。少し遊びかけても、直ぐに飽き、笑ひも、笑ふような顏はしますけれども、眞當に心から笑つて居るのではなく、所謂、にが笑で濟む。もう一步病氣が酷くなつて、命にかゝはるといふような狀態になりますと、欠伸を出します。一寸した音響や、燈火のやうな光に感じてさへも、直ぐに泣き出します。

これに反して、良い方に向ふ時であると、身體が目に見えてよくならない前に、もう機嫌の方が

よくなつて來ます。總ての調子がだん〳〵と快活に機嫌よく、人が愛すれば笑ひ、玩具も持てば、遊びもするといふやうになつて來ます。故に機嫌は病氣のバロメートルであると云ふのであります。例へ身體には、特に斯ういふ變りがあると云ふ場合でなくとも、機嫌がわるく遊ばなくなれば、必ず、どこかに異狀があると思はなければならず、反して、今まで病氣の子供でも玩具を持つて遊ぶようになれば、少しは熱が高くても、顏色が元のように生々として來なくても、もう大丈夫と思つてよいのであります。

斯ういふ譯で、吾々は先づ第一に子供の機嫌で其の容體を判斷することが出來ますし、また之れによつて、病氣の時期、卽ち、惡い方に向つて居るか、恢復期に向つて居るかといふことを見分けるのに、最も正確なる標準であります。

子供が腦膜炎に罹ると、初めは物の刺戟に感ずることが、極めて鋭敏である。然し、もつと病氣が進んで來ますと、反對に無感覺になつて、人が側へ行つても、音がしても、眼を開かない。斯うなると、餘程重體である。其の他、漫性の腹膜炎や、腸胃の病は、一體に機嫌が惡く、常に、愉快に遊ぶといふことがなくなつて、每時も隅の方へよつて、ぐず〳〵して居ります。又、常に落つきがなく、そわ〳〵して居る子供がある。それは一面には、敎育の惡い爲めにもよることがありませうが、子供のヒステリー性によることが多いのであります。

顏貌の變化

次に、子供の病氣を觀測するに最も都合のよいのは、顏貌であります。子供が顏をしかめて、さも痛さうな樣子をして居れば、きつと、痛みのある病、例へば、腹膜炎、胃腸の痛であるに相違ありません。それから、常に憂欝な沈んだ樣子をし

て、恰度成人で云ふと、心配そうな顔をして居るのは、心臟病の徵候であります。どことなく疲れたような、ぼんやりした、苦しそうな顔面をして居るのは、長い間の心臟病か、若しくは其の他の慢性病であります。或る一點を凝視して居て、成人で云へば、非常に眞面目な顔をして居るのは、腦膜炎の疑があります。子供が恰度年寄のような顔面をして居る事がある。これは胃腸病の一種で、小兒痩削症に見る顔貌であります。

泣き方の異常

これも子供の病氣を知るに都合のよい方便であります。子供といふものは、何處か具合が惡くなければ泣かないものであります。何時も、すや〳〵と眠つて居る。泣けば何處かに故障があると思はなければなりません。然し其の泣き方にもいろいろ違があります。それをよく注意して觀測すれば、其の泣き方の意味を知ることが出來るのであります。これに大體次のような區別があるようです。

(一) 哺乳兒が、唇をびく〳〵動かして、高い聲で長く泣く、これは一般に空腹を訴えるのであります、

(二) 足を腹の方へ引きつけるようにして、酷く泣くといふ場合がある。これは腹痛を訴へるので、此の時には、同時に必ず便が惡くなつて居ります腹の痛む時に足を腹部の方へ引きつけるといふことは成人が腰を屈めて痛みを緩めるのと同じ譯です。

(三) 子供が、さも痛そうに顔をしかめて、火のつくように劇しく泣く、これは中耳炎、又は損傷のあつた時であります。

(四) 低い聲で、うめくように泣く、これは腹膜炎若しくは肋膜炎のある場合であります。

(五) 咳の出る前に、深い溜息をする。これは肋

膜炎若しくは肺炎のある場合であります。

（六）聲の枯れるとき、これは主として、小兒脚氣、喉頭炎のある爲めであります。

（七）聲が出なくなるとき、これはジフテリヤ、口頭クループ等のある場合であります。

睡眠の異常

健康なる子供は盛んに寢るものである。一般に寢さへすれば健康な狀態にあると云つてよいのであります。これが、よく眠らないとか、眠つてもちよつとした音で、直ぐに目を醒ますといふように、淺眠の狀態が續いて居るのは、確に病氣のある證據であります。これと反對に、過度な熟睡に陷ちて居て、起しても容易に起きないと云ふ所謂昏眠の狀態になる場合があります。これは前の淺眠よりも、もつと性の惡い病氣のある爲めであつて、主として、中毒若しくは腦膜炎等の爲めに、腦が侵されて居る場合でありますから、非常に注意せなければなりません。

寢方の異常

肋膜炎若しくは肺炎等のある者は常に其の侵されて居る方を下にして寢るようになります。例へば、右の肋膜や肺を侵されて居る者であると、右の横腹を下にして寢ますし、左の方を侵されて居る場合であると、左の横腹を下にして寢るようになる。これは、侵されて居ない方を下にして居ると、病氣の爲めに只さへ苦しき呼吸が尙更苦しくなるからであります。さういふ事のないやうに、自然的に豫防の策を講じて居るのであります。

（一）病氣の爲めに、子供の體が衰えて來ると、目を開いて寢るようになる。これを兎眼と云つて重き病氣であります。

（二）口を開けたまゝに寢る。これは鼻又は咽喉に、故障のある爲めであります。

（三）子供が眠つて居る中に齒ぎしりをしたり、

笑つたりする。これは腦の病が起らんとして居るか、若しくは起つて居る證據であります。

眼の異常

子供の眼といふものは、非常に生々として、輝いて居るものであります。若し此の生々とした美しさがなくなつて、どんより曇ツた眼になると、どこかに病氣のある證據であります。瞳に變化が起きて、非常に大きくなつたり小さくなつたり、右と左とが違つて來たりする。これは腦に病のある證據であります。腦に病氣のない子供であつて、平常から眼をぼんやり開けて居る子供があります これは大體は、腹に蛔蟲のたつて居る證據だと云ひます。

皮膚の變化

子供の皮膚もまた、常に肉つきがよく、美しく張りきつたものであります。それがちよつと病氣にかゝると、直ぐに、ふツくらした張りが弛るんで來て、皮膚が凋んで來ます。成人であると、少し位の病氣では、そう急劇に皮膚までも影響しませんが、子供は直接に其の變化が見えて來ます。殊に下痢の時には最も極端であつて、直ぐに痩せて來ます。然し其の恢復もまた早いものであります。

今申したやうに、子供の皮膚の色は、現に赤ん坊と云ふ位であつて、常に清純な赤若しくは、桃色の血色をして居るものであります。

(一) これが赤みがゝつた紫、卽ちチアノーゼの色に變つて來ることがあると、それは心臟病其の他、呼吸困難の病氣のある證據であります。

(二) 皮膚の色が蒼白く變つて來るのは、漫性若しくは貧血性の病のある證據であります。

(三) 熱性の病に罹ると赤くなつて來ます。顏を見て普通よりも赤ければ、必ず熱があるので、これは成人よりもよく判るものであります。

（四）腎臓病があると皮膚の色が青白くなつてはれて來ます。

（五）黄疸があると黄色に變じて來ます。

皮膚の溫度

身體に熱のある時に、皮膚の暑いのは當り前であります。反對に謂れなく冷いことがある。これは貧血か心臓の病か、若しくは早生兒である場合が多いので、常に皮膚が冷却して居ります。鼻や手足が過度に冷へて來るのは、多く小兒コレラ等の重症でありますから、總て皮膚の冷却するような場合は、殊に注意をせなければなりません。

腦膜炎のある時は皮膚の感覺が一體に鋭敏になることは前にも申した通りであります。其の他、皮膚の一部分が光るように赤くなつて、だん〳〵と擴まつて來るのは、丹毒の恐れがある、又全身にぽツ〳〵の赤い斑點が出るのは、麻疹又は猩紅熱等であります。

脈搏の異常

子供の脈搏は、泣くとか驚くとかいふような一寸した事の爲めにも、すぐ變動を起すものであります。故に脈を測るには、眠つて居る時か、若しくは靜にして居る時に測ることが必要であります。又、熱のある時は脈の數が多くなつて來ます、腦の病や貧血性の病があると著しく遲くなつて來ます。脈の打ち方が不規則で、とぎれるといふような場合は、殊に心配が多いので、それは腦か心臓に故障のある證據であります。然し人によつては、前に病氣でもないのに、平生から、一の變則として、そう云ふ脈の打ち方をするのがあります。これは別に氣にする必要はありません。

けれども、脈の打ち方が遲くて、不規則であると云ふ場合は、多く結核性腦膜炎か、胃腸病の重いのか、急性傳染病か若しくは、重い病氣の恢復期にある者であります。

體溫の變化

これは誰れでも常に注意して居る事柄でありますが、これも脈搏と同樣に、外部の影響が直接に關係を及ぼして來まして、泣く、驚くといふようなことの爲めにも幾分熱が上つて來ます。然しこれは一時的のものであつて、其の原因が濟めば、また元へ歸つて來ます。そういふ譯で、子供の熱を測るのは非常に困難なものである。肛門の中へ體溫計さして測るのが一番正確でありますが、然し普通には出來にくい事であります。

此の頃のやうな暑い時分に、急に三十九度、四十度といふやうな高熱を發することがあります。それは多く食當りが原因となつて居りますから。其の場合には、食べたものを嘔かすか下してしまうと、直ぐに其の熱は消散します。又、何の原因ともなく、急に熱が出て、夫れが自然に引く時があります。これは一日熱と云つて居ります。其の他は成人の場合とは餘り大差がなく、矢張り同じ理由で發熱するものであります。けれども子供は、成人程に深い意味がなく、急に發熱して、急に消散するといふ場合が多いのであります。

消化機の變化

消化機の變化は一番先きに、舌に表はれて來ます。舌の奥の方が半分又は三分の一程、白くなつて居ても、それは別に異常のある譯ではありません。然し是れが尖きの方までも一面に白くなつて、掃つても取れないといふ場合には、消化機が侵されて居る證據でありますから、注意する必要があります。

舌の狀態に「地圖樣舌」と云ふのがあります。これは舌の表面が恰度地圖の岸海線のやうに、屈曲した線が出來て居るのであります。これを非常に氣にして、何かの病氣ではあるまいかと問ふ人が往々にあります。然し是れは別に病氣の爲めで

はないので、腺病質の人によくあることであります。この場合には腺病が治れば舌の方も自然と治つて行くものであります。それから舌が眞赤になつて、はれ上つて丁度「イチゴ」の樣になつて居るといふ場合は、猖紅熱の一ッの症候であります。

舌の一部分が少し低くなつて、淺き窩となり白くなつた居るのは、潰瘍のある爲めであります。口内炎又は先天黴毒のある人にも、よく斯ういふ變化が起つて來ます。それから最も多く出來るのは、鵝口瘡であります。これは口の中に、白いボッ〳〵が澤山に出來て、其周圍が少しく赤くなつて痛みを持つて來て、拭いても、それが取れない。子供は痛みの爲めにお乳を吸はず、又、その爲めに腹が痛んで來るものでありますから、これ等は注意して直ぐに診察を受けなければなりません。

嘔吐

次に及ぼす變化は嘔吐であります。然し是にも二通りあつて、一は眞當に嘔くのと、一は乳を餘す場合とであります。第二の場合は卽ちお乳を呑み過ぎたり、呑んで直ぐに體を動かしたりする爲めに、少しも苦まないで、口からお乳を餘すと云ふ場合でして、これは別に病氣の爲めではなく、恰度水の入つて居る德利が倒れて、水が出ると同樣でありますから、別に心配は入りません。

然し第一の眞當に嘔く場合には、いろ〳〵の原因があり、主として胃腸の病氣、若しくは急性傳染病の初期、腦膜炎等に來る徵候でありますから是は注意せなければなりません。又、猖紅熱其の他の時にも嘔きますけれどもこれは大したことがありません。然し乍ら、嘔吐のあつた場合に、それが何の原因であるかは、ちよつと見分られぬものでありますから、お乳を餘す場合の嘔きは別として、其の他の場合には、少くとも一度醫者の診察を受けて置くやうにした方がよいと思ひます。

其の他、消化機の變化を表すものに大便の異常があります。普通、哺乳兒の大便といふものは、恰度、黄色い膏藥のやうな外見をして、適當に柔いものであります。これが病氣になると、樣々の變化を起して來ます。輕い輕症の時であると、恰度、菜種のやうな、白いぶツ〳〵が混じて來ます。次には粘液を混じて來ます。又、蒟蒻のやうに固まつたもの、水のやうに、ゆるくなつたもの、其他さま〴〵な變化を起して來ます。量も多かつたり、少かつたりして不規則であります。回數は一般に多くなり、色も違つて來ます。其の變化を大略すれば、次のやうな區別があります。

(一) 水のやうな便が澤山に出る場合は、小兒コレラ、エンテロカタル等であります。

(二) 粘液性の便が出る場合は、濾泡性腸炎、赤痢、疫痢等であります。

(三) 大便の色が變つたり、菜種の樣な白い固りが混じて居たりするのは、消化不良の徵候であります。これ等の徵候は何れも危險に賓して居るか、若くは後に危險を起すべき恐れがありますから、成るべく早く手當をする必要があります。

呼吸機の變化

呼吸の數も、熱の場合と同樣に、外界の刺戟の爲めに急劇に變化するものであります。故にそう云ふ一時的の變化は別に心配は入りませんが、病的に呼吸の數が增して、苦くなつて來る場合、これは肋膜炎、肺炎等で、又、心臟の惡い時にも呼吸困難を起して來ます。呼吸機に故障があると、第一に咳が出て來ます。其の咳によつても、大略其の病氣を見分けることが出來ます。所謂、乾咳と云ふ、乾いたケン〳〵した咳が出るのは、主に喉頭カタルの時で、濕つた、低い調子の咳であると、氣管支カタルであります。ジフテリヤの時には、恰度、犬の吠えるやうな、喉に突かかつて響

くような咳をします。百日咳、これは一種特別な咳をする、初め淺い小さな咳を澤山にして、最後に深く長い引く息を致すものです。そして一種特有な粘り氣の強い泡の交つた痰を出します。

小便の變化

これは成人の場合と餘り差がありません。極く稀れではあるが、糖乳病の時には、小便の量が多く、色が白く變つて來ます。腎臟病の時は量が少くなつて、色が濃く變じて來ます。そして同時に頭や足にむくみが、出來て來ます。

病氣の爲めに起る身體上の變化は大體右のやうな種類であります。これをよく注意して觀測して居さへすれば、子供の病氣を早く見分ける事は、左程困難な事ではあるまいと思ひます。

金糸雀に育てられたる雀の歌と呼び聲（つゞき）

杉井ふさ

十一　度々の失敗

扨てこれから愈々本論に入つてコンラヂ氏の實驗を述べて見ようと思ひます。元來この實驗の目的とする處は、雀を卵から金糸雀に育てさせ、且つ全く雀の歌を聞かせずに雛を育てようと云ふのでありました。さうすれば今迄の實驗では免れ得なかつた親鳥の生れたての雛に與へる印象をさへ完全に除去することが出來ます。實驗を初めたのは或る年（一九〇三年）の七月一日でありました。然し同年の夏の間は金糸雀が羽毛の脱換期を前に控へて巣につかず、又秋になつてやつと巣についた時分には既に雀の產卵期が過ぎたので不成功に終